

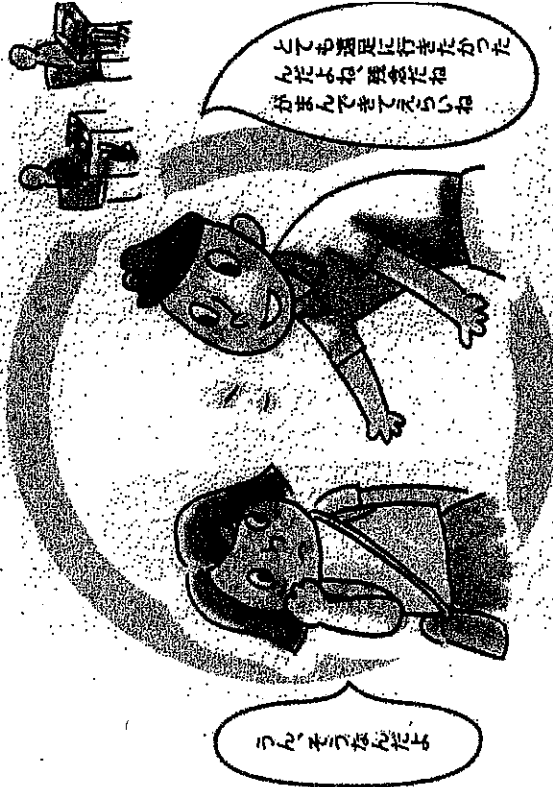
特別支援だより No.8

令和3年6月 1日 (火)

特別支援教育コーディネーター 松田敦子

気持ちの切りかえ が苦手な子

『普通』という枠を外してみると、気持ちの切りかえが苦手なだけなのかもしれませぬ。「我慢しなさい」と叱るよりも、子どもの気持ちを受けとめてあげて、我慢しようとしていることを認めてあげることが大切です。



「かまんできてえらいね」って言って、わかってくれて、うれしいな



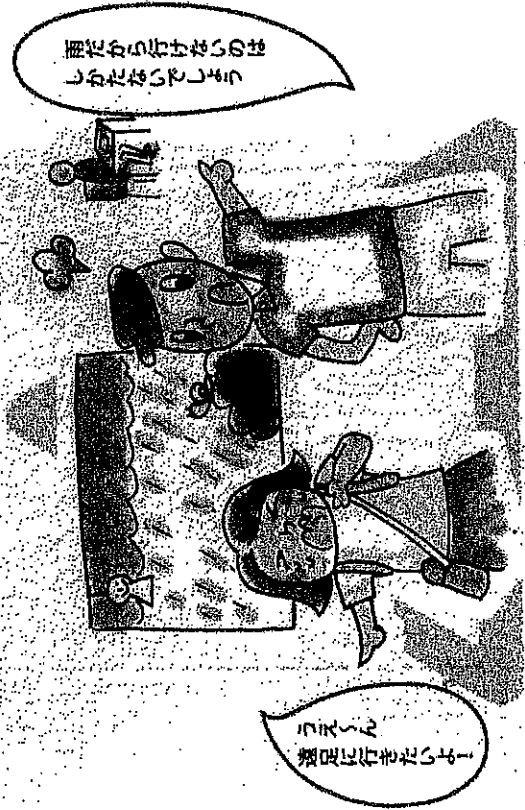
そっかあ、気持ちをを受けとめてあげると切りかえが早くなるのね

POINT!
このような子には、安心して気持ちを切りかえができ、折り合いがつけられるような声かけが大切です。大人になるまでにそれができるようななれればいい、という長い目で見守ってあげましょう。子どもの気持ちに寄り添って共感してあげると安心して、混乱が収まります。

予定が変わると 怒りだす子

※予定が気になったら⑤

『普通』という枠で比較してしまうと、気難しくて融通の利かない頑固な子であると勝手に評価されることが多くなります。



今日は、遅延って言ったのに、サソっま〜っ



予定が変わるといつも、だだをこねて困らせる。もう、どうしたらいいの？

POINT!
気もずかしくて融通がきかない頑固に見える子は、見通しがつきにくいタイプが多いです。そのため、予定変更の予測が苦手なので、予定通りにいかないと言えないと混乱して不安になり泣いているのです。ここで叱るとよけい不安になりますね。

Q2

他の児童の話聞きません。 どうすればよいのでしょうか？

自閉症児は、友達の話“聞く”ことができなかつたり、自分の言いたいことだけを一方的に話してしまうために、授業中に行う小グループでの話し合い活動などがうまく進行しないことがあります。

自閉症の特性から考えてみましょう

- ◎ 自閉症児の多くは、ことばの発達に遅れや偏りをもっています。話し言葉の理解が難しいものの、両親や教師などの大人が本人に分かるように配慮して話しかけているので聞くことができている子どもの場合には、子ども同士の会話ではそのような配慮がなされないために、話が聞けないことがあります。特に、言葉の理解に遅れのある子どもの場合は、内容や意味の説明をする必要があるため、さらに難しくなります。
- ◎ 話し言葉の聞き取りや、必要な情報を選択して注意を向けることが苦手な自閉症児の場合には、周囲の雑音と人の声と同じレベルで耳に入ってしまう、話している友達の声を聞き取ることができないことがあります。話し合い活動では、複数の人が代わる代わる発言したり、教室全体が騒がしいために、より一層聞き取りにくくなります。
- ◎ 中には、聴覚が過敏なために、他の子どもの甲高い声を拒絶してしまう自閉症児もいます。また、話し方やアクセントのおもしろさに気をとられてしまったり、音として聞いてしまうために、言葉として聞き取れていないこともあります。
- ◎ 雑談的な会話では、相手の話の中から中心となるテーマを聞き取り、そのテーマに沿って自分の意見を述べ、さらに相手の発言を聞くことが必要になりますが、ある程度の会話が可能な自閉症児でも、そのような双方向のコミュニケーションが難しいことが、自閉症の特性の一つです。
- ◎ 周囲の状況とは無関係に、自分が興味関心を持っている話題を一方的に話してしまう子どももいます。「こだわり」が強いために、常に自分が興味関心を持っている話題だけを話していることもあります。相手の表情や場の雰囲気を読み取ることが苦手で、いつまでも話を続けたり、平気で話に割り込んだりすることもあります。

支援のヒント1 自閉症児への指導例

小学校3年生の知的障害を伴う自閉症の男児。字を書く・工作するといった学習はできますが、話し合い活動になると集中できなくなります。特に友達の話はほとんど聞いていないようです。このような場合、支援の方法として以下のようなことが考えられます。

- ① 「〇〇さんが大事なことを言うからよく聞いて」などと声をかけ、前もって注意を向けさせる。
- ② 発言にゆとりのある子どもには、「◇◇君も聞いて下さい」とか「◇◇君分かりましたか」と声をかけてもらうようにする。
- ③ 子どもの発言の要旨を板書しながら話し合いを進めたり、絵やカードなどの視覚情報で補って分かりやすくする。
- ④ グループの話し合い活動を行う時間は、可能ならTTを利用したり補助教員をつけるなどして子どもの話を「通訳」する。

支援のヒント2 高機能自閉症・アスペルガー症候群の児童への指導例

小学校6年生のアスペルガー症候群の女児。不自由なく日常会話ができる言語能力があるのですが、相手の話をほとんど聞かないで、自分の言いたいことだけを一方的にしゃべってしまうため、友達との自然な関係が作りにくい子どもです。このような場合、以下のような支援の方法が考えられます。

- ⑤ 「自分の好きなことをみんなが好きとは限らない」「趣味や興味関心はそれぞれ違っている」ということを折に触れて教える。
- ⑥ 友達が話をしている時には、「まず話を聞くこと」を教える。話したいことがある時には、いきなり話し始めずに、手を挙げたり、「すみません、意見があります」と言って承諾を受けてから話し始めるように教える。
- ⑦ 放課後など可能ならば、話のやりとりの練習をする。(教材に、学校や家庭を舞台としたマンガやアニメを活用して指導してもよい)
- ⑧ 本人が興味関心を持っている話題につき合う時間を別に設けて、本人の気持ちを満足させるようにする。
- ⑨ 苦手とする即時応答の会話の技能を高めることばかりに目を向けず、自閉症児が比較的得意とすることの多い、画像や文章によるコミュニケーションやインターネットをうまく活用する。